

都道府県番号	13
都道府県名	東京都

()

・学校名及び規模

品川区立荏原第三中学校					
	1年	2年	3年	計	教員数
学級数	3	3	3	9	19
生徒数	97	106	103	306	

・実践研究の概要

<p>・主題(テーマ) 少人数の学習集団による指導の推進でより確かな学力を培う。</p> <p>・テーマ設定の趣旨 生徒に自らのつまずきを気付かせ、自己解決する力を身に付けさせる指導は確かな学力の定着を保証することになる。そのために小学校の算数との連携を重視して、習熟度別に行う数学の少人数指導を中心とする指導と評価を行い、学習内容の定着に関する自己理解を深めながら生徒一人一人の学力の向上と定着を図る。</p>
--

・実践研究の内容について

() 研究体制の工夫

以下、二つの組織を設置し、研究を推進する。

<p>フロンティア事業推進事務局(小・中連携に関わる研究推進) … 校長、教頭、研究主任を中心に組織</p>
--

<p>学力向上数学委員会 … 校長、研究主任、数学科教諭を中心に組織</p>
--

() 実践研究の内容

- ・ 全学年の数学科の指導において、各単元時末に習熟度別指導を行い、自らつまずきに気付かせ、自己解決させる学習を通して学習の仕方を身に付けさせる。
- ・ 単元の学習終了時に評価を行い、「学習内容理解状況連絡カード」を作成することにより、生徒自身による自己課題の把握を可能とし、つまずきの解消と再評価ができるシステムを作り、学習意欲の向上を図る。
- ・ 学力向上フロンティア事業協力校(小学校4校、中学校2校)の連絡協議会を開催し、各校種における課題の確認と基礎学力の定着にかかわる基本的指導事項の徹底を図る。

() 成果と課題

成果

- ・ 第1学年の数学の学習の最初に小学校で身に付けておくべき計算力の定着を図る確認学習を習熟度別に指導し、学習の仕方を身に付けさせる点に注力したことにより、つまずきの発見、自己解決力が高まった。
- ・ 評価結果の伝達方法を工夫することによって、生徒・保護者から理解が得られ、生徒の学習意欲の向上が高まった。
- ・ 小・中連携を重視して進めたため、算数・数学の連続性を図ることができ、とりわけ、小学校では、基礎学力の保証の基盤である技能を定着させることができた。

課題

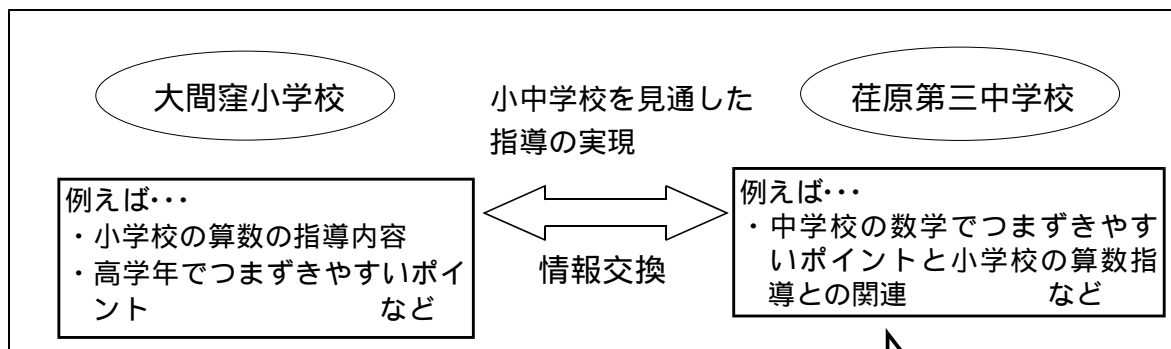
- ・ 習熟度別指導の成果を客観的に評価する方法をどのようにするか。
- ・ 全国標準テストを活用した到達度の評価について、到達レベルをいかに設定するか。
- ・ 学習意欲の向上に向けて、「学習内容理解状況連絡カード」をどのように活用するか。
- ・ 学力向上フロンティア事業の協力校間の連携と効果を高めるための推進体制を、どのように構築するか。

() 成果の普及方策

- ・ リーフレットの作成により、地区内の全小・中学校に配布し成果の普及を図る。
- ・ 区の関係研究会において、本年度の取組内容を発表・報告を行い、成果を普及する。

() その他、特色ある取組

小学校と中学校が、算数・数学の指導を中心に小・中学校の連携を深め、基礎・基本の確実な定着をめざしている。



大間窪小学校も荏原第三中学校も習熟度別の少人数指導を実施しているが、この連携により、小中学校を見通した算数・数学の指導の在り方やきめ細かなノート指導の工夫などについて共通理解を図ることができた。また、区の事業として両校に共通の講師が配置されていることも連携した指導を進める上で効果を発揮している。

荏原第三中学校では、指導内容について、**単元末の評価 再評価 年度末評価**という評価システムを作り、基礎・基本が確実に身に付くように指導を繰り返している。

()

該当する観点にチェックをすること